

# Ⅱ 「1日防災学校」 実践事例

自分で守る  
みんなで守る  
防災教育

# 幼児教育 施設

## 災害時の状況を疑似体験

## 幼児なりに考える水防学習

### 子どもたちの学び

- ・災害時の状況を疑似体験することにより、視界の悪さや歩きづらさ、寒さ等を肌で感じ、災害の恐ろしさとともに避難の困難さや避難の目安について学ぶことができた。

### 実践① 降雨体験を通して集中豪雨の恐ろしさや避難の困難さに気付く



降雨体験を通して、集中豪雨の恐ろしさや避難の目安、避難の困難さを理解し、集中豪雨による災害時の行動の仕方を身に付けられるようにする。

- ・雨具を着用し、風なしの状態  
で降水量が最大 40mm/時までの  
激しい雨を段階的に各 120 秒  
程度、体験する。
- ・仲間と感想を交流し、大雨に  
よる災害時の行動の仕方につ  
いて幼児なりに考える。

### ●指導のポイント

- ・通常の雨量における状況との違いについて感想を交流し、集中豪雨の恐ろしさを仲間と共有するようにする。
- ・体験を通して、避難の目安に気付かせ、どのように行動したらよいかについて考えられるようにする。

### 実践② 地下浸水体験を通して浸水災害の恐ろしさや避難の判断の大切さに気付く



「扉が重いよ。」 「力を入れても扉を少ししか開けられない。」

地下浸水体験を通して、浸水災害の恐ろしさや避難の判断の大切さを理解し、浸水災害時の行動の仕方を身に付けられるようにする。

- ・幼児一人一人が水深 20cm 程度  
の水が貯まった際の扉の開け  
づらさを体験する。
- ・仲間と感想を交流し、浸水災  
害時の行動の仕方について幼  
児なりに考える。

### ●指導のポイント

- ・水が貯まった状態での扉の開けづらさについて感想を交流し、浸水災害の恐ろしさを仲間と共有する。
- ・体験を通して、避難の困難さに気付かせ、早めの避難の大切さについて考えられるようにする。

## ●学習指導案

学 校 名	音威子府村幼児センター		
対象学年・学級	4歳児、5歳児	対象幼児数	8名
科目／単元名	水防学習・体験活動		

### 1 本時のねらい

○災害時の状況を疑似体験し、日常生活の様々な場面で発生する大雨による災害の危険性を理解するとともに、災害時における行動の仕方を身に付けることができる。

### 2 評価の観点

○疑似体験を通して、大雨による災害の危険性を理解することができる。

○大雨や浸水等の災害時における行動の仕方を身に付けることができる。

### 3 防災教育の実践

(1)防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・大雨や浸水等の災害の危険性を知り、災害時における行動の仕方を身に付けること。

(2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・降雨体験や地下浸水体験を通して災害時の危険性と行動の仕方について理解し、実践する。

(3)幼稚園教育要領との関連

- ・教職員と一緒に行動しながら個々の状況の中で、幼児なりに災害の危険性や災害時の行動の仕方について考えられるようにする。
- ・地域に大きな河川があるという特徴を理解し、日常生活の様々な場面で大雨や浸水が発生する危険性があることを意識できるようにする。

(4)家庭、地域、関係機関との連携

- ・教育委員会が主催し、外部機関による指導の下、幼小中同日開催で水防学習を実施する。
- ・防災意識を高めるため、家庭に向けて避難訓練や体験活動の内容を園だよりで発信する。

### 4 学習の展開

過 程	主な活動
導入 ・説明	河川事務所からの説明を聞こう。 ・降雨体験と地下浸水体験の説明を聞き、水防学習の見通しをもつ。
展開 ・降雨体験 ・地下浸水体験	降雨体験と地下浸水体験をしよう。 ・降雨体験では、災害時の雨とはどの程度の雨なのかを体感し、集中豪雨の恐ろしさや避難の目安、避難の困難さについて学ぶ。 ・地下浸水体験では、浅い水深でも水圧がかかっている扉は開けづらいことを体験し、浸水災害の恐ろしさや避難の判断の大切さ等について学ぶ。
まとめ ・振り返り	災害の危険性や体験について振り返ろう。 ・体験したことや学んだことなどを振り返り、交流する。

# 幼児教育 施設

## 火災から自分の身を守ろう！

## 放水体験をしてみよう

### 子どもたちの学び

- ・襟元や袖で鼻と口を覆いながら低姿勢で避難することができました。
- ・実際の消火活動や体験を通して、火の恐ろしさや消防で働く方の仕事を知ることができました。

### 実践① 火災発生！指示を聞いて避難します



口と鼻を隠して  
背を低くして

### ●指導のポイント

- ・分かりやすい指示や誘導を行い、落ち着いて安全に避難できるようにする。
- ・園児の避難姿勢や方法を認めつつ、「お・か・し・も」の約束を伝えることにより避難方法が身に付くようにする。

火災の恐ろしさや避難の大切さを知り、安全に逃げる方法を身に付けられるようにする。

- ・非常ベル、放送、教職員の声をしっかりと聞く。
- ・煙を吸わないよう避難姿勢をとり、対応しながら戸外へ避難し整列する。

### 実践② ちびっこ消防士になって放水体験！



本物だ！  
的を狙っているのに  
当たらないな！

火を消せるか

### ●指導のポイント

- ・実際に体験することにより、消防士の仕事の大変さや大切さを感じられるようにする。
- ・消火活動を間近で見て炎の熱さを実感するとともに、落ち着いた行動により大きな火災につながらないことが分かるようにする。また、園内に消火器があることや場所を知るようにする。

- ・放水体験を通して、消防士の仕事を知り感謝の気持ちにつながる。
- ・消火訓練を行う教職員の姿から、初期消火について知る。

- ・防火衣とヘルメットを身に付け、消防士と一緒に的に向かって消火活動をする。
- ・装備やポンプの重さ、水圧の強さなどを体験し消火の大変さを感じる。

## ●学習指導案

学 校 名	小平町立鬼鹿幼稚園		
対象学年・学級	全園幼児	対 象 幼 児 数	14 名
科目／单元名	災害安全（火災時の安全）		

### 1 本時のねらい

- 火災の恐ろしさと避難の大切さを知り、火災予防への関心を高める。
- 安全な避難の仕方を身に付ける。
- 消防署で働く人達に感謝の気持ちをもつ。

### 2 評価の観点

- 火災の恐ろしさと避難の大切さを知り、火災予防への関心を高めることができる。
- 安全な避難の仕方を身に付けることができる。
- 消防署で働く人達に感謝の気持ちをもつことができる。

### 3 防災教育の実践

- (1)防災教育を通して育成したい資質・能力
  - ・教職員の指示に従い、一人一人が落ち着いた行動がとれるようにする。
- (2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要
  - ・火災発生に際し、教職員の誘導に従い避難を行う。
- (3)幼稚園教育要領との関連
  - ・健康(10)危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。
- (4)家庭、地域、関係機関との連携
  - ・地元消防署職員による説明と避難訓練の講評を行う。
  - ・保護者に対し、避難訓練及び活動の内容について通信等を通じて、周知する。

### 4 学習の展開

過 程	主な活動
<b>導入</b> ・学習の見通し	<b>避難について確認しよう</b> ・避難訓練のねらい及び避難方法について、説明を聞く。
<b>展開</b> ・避難訓練の実践	<b>教職員の指示に従い、落ち着いて避難しよう</b> ・非常ベルと放送を聞く。 ・教職員の誘導に従って上履きそのまま園庭へ出る。 ・「お・か・し・も」の約束を守る。 ・避難場所に集まり、教職員の指示に従い整列する。 ・避難訓練について、消防署長の講評を聞く。 ・園児放水体験及び教職員による消火訓練の見学を行う。 ・消防署の方にお礼を言う。
<b>まとめ</b> ・学習の振り返り	<b>自分たちの訓練での様子を振り返ろう</b> ・教室に戻り、教職員の話聞く。